

# To Freshmen, Congratulations!

2016年度入学式

## 中大史上(初)英語スピーチ

中央大学2016年度入学式(午後の部)で総合政策学部3年の和田ユリ花さんが、中大史上初の英語スピーチによる「歓迎の辞」を披露した。創立130年を超えた春・4月2日、中大に新たな歴史が刻まれた。



酒井総長・学長らが見守る中、堂々と英語でスピーチをする和田さん



### 第一声で会場がざわめいた

多摩キャンパス第一体育館アリーナ席から、在学生代表として和田さんが壇上へ向かうとき、司会者がこうアナウンスした。「お手元の式次第の挟み込みをご覧ください」

正装の彼女は、酒井正三郎総長・学長、深澤武久理事長らに一礼。回れ右をして参列者に近い位置で再び頭を下げた。顔を上げるとペーパーを手に話し始めた。

「トゥー フレッシュメン コングラッチュレーション～」で始まった歓迎の辞に会場がざわめいた。経済学部、商学部、総合政策学部の新入生と保護者で総勢約6000人にも及ぶ参列者が、互いに顔を見合

せ、何が始まったのか、という表情だ。式次第の挟み込みが「英文和訳」と分かった。

和田さんは、新入生が有意義な大学生活を送るためのヒントになれば、と中学2年からの3年間を過ごした米ニューヨークでの体験談などを話した。

英語スピーチが続く。

「もともと英語に対して苦手意識が強く、毎日朝から晩まで英語を使う生活に混乱しました。泣きたくなくて、日本に帰りたくなったこともあります。しかし、趣味だった音楽やダンスを通して、少しずつコミュニケーションがとれるようになり、帰国するころには、人並みに英語が話せるようになっていました。

この経験から、私は英語に対して『やればできる』という思いを抱くことができるようになりました」

期待とともに不安も抱える新入生へ、最初は誰もが初心者です、と大いに勇気づけた。

### 万雷の拍子と感嘆の声

会場では、用意された和訳のプリントに目を落としてスピーチに耳を傾ける人、話し手の表情をまっすぐ見ている人とさまざまだったが、話の内容を理解する人は多く、プリント後半へ移る際には会場がほぼ同時にペーパーを裏返しにした。

持ち時間3分間の途中、和田さんは自らに問いかけた。「早口でしゃべっていないかしら。顔がこわばっ

ているかも」。そおっと深呼吸をして、リズムを整えた。国際ジャーナリスト志望などを話して、スピーチを終えた。

降壇する和田さんへ万雷の拍手が降り注ぐ。場内に「130年を超える本学の歴史において、初となる英語による歓迎の辞でした」とのアナウンスが流れると、今度は感嘆の声が増していった。

「緊張しました」とは言うものの、終始落ち着いた堂々たるスピーチだった。「私は留学前、英語が嫌いだったので、英語で話すと、みなさん、眠くなるかもしれない。少しでも聞いてもらえるように、分かりやすいように」

準備で心掛けたのは、ゆっくり、はっきりと話す。登壇前には担当職員が、「時間は気にしないで」と優しく背中を押してくれた。

## まさか、私が!?

依頼は昨年12月に受けた。在籍する総合政策学部の松野良一学部長からだった。FLPゼミの担当教授でもあり、2年次からは、留学経験を生かして英語のパートを任されていた。

「まさか、私が!?!」「ずっと勉強しているのだから」「このようなお話をいただける機会はなかなかないよね」「ぜひ、お願いします」

当初は日本語でのスピーチだと思っていた。困惑した日もあったが、決意してからは積極的に取り組んだ。

まず、日本語でスピーチ内容をA4版2枚にまとめた。テーマは英語。英語で授業が行われる学部のチャレンジジャズプログラムの受講を決めたこと。昨年、学部独自の課題探求

型奨学金(プロジェクト奨学金)を活用して、ワシントンDCで米国側から太平洋戦争を考えたこと。将来は社会問題取材する国際ジャーナリスト志望であることも盛り込んだ。

松野学部長の添削を経て、英文作成へ。在学生代表をなんと表現するかなど苦心の末の英文を入学以来2年間、指導を受けたサイエルザ・マ



# Make yourself rea

## 笑顔の裏に隠された努力

3年間滞在したニューヨークでは、ブロードウェイへミュージカルを観に行った。「最初は分からなすぎて…。でも次は分かって、ショーの内容とともに感動しました」。そう話す笑顔の裏に隠された、英語の猛勉強の日々。観劇が語学力を測る一つの昇級試験だったかもしれない。

## お母さまも奮闘中!

米国での英語体験を生かそうと、和田さんファミリーが奮闘中だ。母も歌が好きで、英語の歌を歌うとき「この発音でイイかしら?」と確認を求められるという。折に触れて英語に親しむ。「経験を無駄にしないようにしています。ある意味、英語一家です」。和田さんがスマイルをたたえた。

シューズ先生へメール送信。返信は「これで大丈夫です」と合格点だった。

さあ、今度はスピーチ練習だ。「自宅で夜中に一人、ブツブツ言っていました」と小さく笑った。

人前で自らを表現することには経験があった。中学2年、テレビのオーディション番組に出演。女性ミュージシャン、YUI(ユイ)のアカコーステックな曲を2曲、歌いきった。

中大入学後はアカペラのサークル「Do it your voice」に入り、昨年は全国学生大会決勝へ進出。仲間との絶妙なハーモニーを披露した。

### やりきった達成感

入学式スピーチ終了直後。用事があってゼミ室へ行った。顔を合わせた次の瞬間、友人らが駆け寄ってきた。「お疲れ、どうだった?」。別の日、

同じサークルの新入生が話しかけてきた。「入学式でしゃべっていましたよね」

また別の日。「Cスクエアの(学内ニュースを知らせる)スクリーンに映っていましたよ」。知らない学生からも声が掛かる。「変な感じですよ。うれしい反面、恥ずかしいです」。反応はGOOD!GOOD!GOOD! いまでは、やりきった達成感がある。

「中央大学には、いろいろな学びの場が用意されています」。スピーチの終盤部分だ。「それは一人ひとりの自由であり、みなさんに任されています。どうか、中央大学に準備されているさまざまな資源を活用し、自分で自分を大きく成長させてください」

中大史上初の入学式英文スピーチは、英語が苦手だった和田さんの、成長したお披露目でもあった。



### □ FLP Faculty-Linkage Program

所属学部で主専攻を修めながら、学部の枠を超えて設けられたプログラムを体系的に学修する。どの学部の学生も履修できる。

### □ 総合政策学部の英語教育

総合政策学部は英語で学ぶ科目が充実している。設置科目 300 超のうち、法律、政治、経済、数学、文学、宗教、哲学などを扱う約 1 割の授業は英語で展開される。専門科目を英語で学ぶことで、高い英語運用能力が身につく。英語以外にも 9 カ国の言語を学べる。ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、マレー・インドネシア語、ロシア語、ペルシャ語、ヒンディー・ウルドゥー語。

# ch for higher goals.

自分で自分を大きく成長させてください

## Do it your voice 夏ライブ

### ●開催日時

7月7日(木) 開場 18時、開演 18時半、  
終了(予定) 21時

7月8日(金) 同18時、18時半、21時

### ●場 所

多摩キャンパスCスクエア2階中ホール

### ●主催

Do it your voice、中大学友会文化連盟

